子どもの森通信

kodomonomorikodomonomorikodomonomorikodomonomori

第 10 号

2013 年 6 月発行

子どもの森通信 10 号　　The kodomonomori Environmental Presrvation　on　rofit　rganezation

四季をまるごと体験 eco スクール …２～３
環境プログラム ……４～５
協働商談会 ……６～７
豊かな森づくり活動 ……８～９
森の学舎・topics ……10～11
２５年度活動予定 ……12

四季をまるごと体験 ecoスクール

2012年5月～2013年3月

今回の四季をまるごと体験ｅｃｏスクールは、昨年に引き続き２期目の開催となりました。秋深い季節に蒔いた麦も冬の寒さ厳しい季節に耐え、春暖かくなった今、大きく成長しています。そして、２期生の蒔いた麦は、３期生へと引き継がれていきます。

自然環境も同じことが言えます。現在の自然は、私たちの知ることができない遠い祖先から大事に守られてきました。私たちは、その豊かな自然の中で暮らすことができています。でも今は、人間の生活を豊かにするため便利にするために、豊かな自然を壊すことが多く行われています。

自然にとっては、今は寒く厳しい時代なのかもしれません。そんな時であるからこそ、私たちは、自然を大切に、必要な時には自然を修復しながら、私たちだけのためではなく、私たちの子孫のために今できることをしなければなりません。

1・2・3	麦刈り作業	5月26日
5・6	ネイチャーゲーム	5月26日
4	麦脱穀作業・ダンボールコンポスト作り	6月 9日
13	竹イカダ作り・川遊び・川の生き物観察	7月 7日
16・17	竹イカダで河川清掃活動	8月11日
8・10・12	海沖で海水汲み・塩作り	9月 1日
9	畑づくり（開墾）・地区の方の畑で野菜収穫・野外炊飯	10月27日
7	麦の種撒き	11月17日
14・15	イチゴ狩り(松田農園さん)・イチゴで酵母づくり	1月19日
11・19・20	酪農体験（矢北さんちの牧場）・石臼で小麦挽き	2月23日
18・21・22	パン焼き・文集づくり・閉校式	3月9日・10日

パン作りを通して、環境と食を考える体験活動
自然体験や農業体験から自然の大切さを学ぶ

いのちの源である食の生産が、利益を追い求める結果、化学肥料を大量に用いて大型機械を使っている現在は、季節と自然に調和していた昔ながらの農業が見られなくなってきました。畑などで採れた農作物が食卓まで運ばれるにも効率・経済性が強く求められ、結果として生産している人の顔、つくっている様子が見えにくくなっています。加工や調理した食べ物の中には、どこの国から入ってきたものかさえわからないものもあるほどです。私たちは、季節や地域を問わずさまざまな食材を手に入れることができるようになりました。しかし同時に、食べ残しや賞味期限切れでゴミとなり捨てられることも多くなっています。大量のゴミを処分するのは、自然環境へ悪い影響をあたえます。

また、外国から輸入する食品は日本に運ぶために多くのエネルギーを使用しています。しかし、近くで作られた食べ物は、私たちの食卓にならぶまでに運ぶエネルギーをあまり使わず、誰がつくったものなのかもわかり、安心して食べることができます。できれば、食べ残さないことがいいのですが、食べ残しがあった時は、コンポスト等で堆肥にして自然に返すこともできます。

今、多くの種類の生物の絶滅が、かつてないスピードで進んでいます。地球の歴史の中で6度目の大量絶滅の危機とも言われています。

過去の生物の大量絶滅は、地球環境が大きく変わり新たな種類の生物が生まれる節目でもありました。現在は、人間が自然を壊すことによって、生物の住む場所が無くなり生態系が壊れてきています。この多くの生物のいのちをみんなでつないでいこうという思いも込めて自然環境を大切にしていきましょう。

子どもの森理事長　横山　謙一

環境プログラム

これからの時代を担う子どもたちに、良質な自然環境を残すためには、体験型の環境教育は、重要なかぎとなるはずです。森の中等での自然体験活動にこだわり、楽しみながら遊びながら、結果よりプロセスを重視して、環境について考えてもらう工夫をした催しを開催しています。

2012年8月3日

川をたのしく親しもう

川をたのしく親しもうは、今回で３年目（３回目）となります。この活動は、ネイチャーゲームで、自然をさまざまな感覚や心を通じて理解し、自然と自分が一体であることを学び、川あそびをとおして自然の豊かさを楽しみ、自然の大切さを学ぶ活動です。

オリエンテーションで、今回の目的と子どもの森スタッフとフェニックス宮崎ネイチャーゲームの会の紹介、そして記念撮影後に、川でのネイチャーゲームを五十鈴川で行ないました。また、川の生き物の大切さ、きれいな水には森林が必要であること等の話もありました。

●川をテーマにした体験型環境学習

以下の川あそび（ネイチャーゲーム）を通して自然に触れ親しみました。

①ジグソーストーン:普段気にとめない小石を観察し集めて、カニ・エビ・魚などを作ります。
②川の流れる音:川の中でしか聞くことができない音を聞きます。
③笹舟流し：川の流れを感じます。
④宝物探し:川に住んでいる身近な生き物を見つけ名前を覚えます。最後に生き物は川に返します。
⑤あめんぼの旅:両手両足をあめんぼの様に広げ体の力を抜くことで体が水に浮くことを知ります。

川遊びが終ったら、参加者全員で昼食のそうめん流しの準備をしました。釜戸でそうめんを湯で、竹のお椀を作り、野菜を天ぷらにしました。

2012年12月2日

森で過ごそう！森に学ぼう！

この体験型環境学習は、樹木の二酸化炭素吸収量の学習、ドングリ苗木のポットづくり、ドングリを使った工作を通して、自然の豊かさを楽しみ自然の大切さを学ぶ活動です。

オリエンテーションの後、参加家族単位で、樹高測定器・巻尺・ワークシートを持ってグランドへ。学舎にある高木（３m以上）４本の高さと幹回りを測りました。測った木は、イヌマキ・センダン・サクラ・ヤマモモの４本です。４本すべて測ったら、教室に戻り、４本の二酸化炭素吸収量を計算しました。

人間を含む動物が吐き出す二酸化炭素や人間の生活や経済活動で排出する二酸化炭素を、再び酸素に戻してくれる樹木を含み植物の大切さに気づき、物質的

●森をテーマにした体験型環境学習

豊かさと便利な生活をしている私たちは、自然環境に感謝しなくてはいけない大事にしなくてはいけないことを、感じてもらえました。

ドングリ苗木作りでは、一人一種類のドングリを竹ポットに蒔きました。最初にドングリクイズをして、ドングリは横にして土に埋めることを覚えてもらい、竹ポットにボラ土、腐葉土と順番に入れ、ドングリを３個置き、土を１センチほど被せて完成です。

苗木を２年ほど自宅で育ててもらい、森の学舎に持ってきてもらうことになります。

昼食は、皆であぶり焼きソーセージ作り・釜戸で炊飯に挑戦しました。午後からは、いろんな自然の素材を使って、ネイチャークラフトを楽しみました。

2013年3月30日

植樹＆春をたのしもう

自然環境の大事さを見つめてもらうために、森の学舎で植樹と山菜料理等で、春の自然を楽しみました。晴天で暖かい一日で、参加者・スタッフ共に春の自然が堪能できました。

「植樹＆春を楽しもう」の中で実施した竹林伐採跡への植樹活動は、これまでの竹伐採でできた空間で今まで根付かなかった苗木の代わりの植樹です。ストレッチ体操と記念撮影が終わってから、参加者は、それぞれ苗木と道具を持って竹伐採跡地に向かいました。今回木を植える目印の添え竹の場所に植樹を行いました。

●春をテーマにした体験型環境学習

今回の植樹は、「スダジイ」「ヤマザクラ」の計21本で、参加者一人一本ずつの植樹です。植樹をしながらタケノコ掘りも一緒に行いました。急斜面で竹の地下茎も多くあり、穴を掘るのも大変でした。

植樹が終わった後、山菜収穫について説明をしてから、図鑑や道具を持って参加者各自が山菜を収穫していきます。収穫した山菜は、名前をつけたプレートに並べて行き、それぞれの山菜の名前を学習しました。そして、山菜料理で昼食となります。釜戸で炊飯して、山菜の天ぷらやあえ物、炒めものを参加者で手分けして調理しました。

一般参加者が山菜収穫をしている間に、ローソングループの方々は竹林の整備です。竹の伐採での足場を確保するために、枯れて倒れている竹を竹棚に積んで行きました。

妖精の森

協働創出市 2012

平成２５年３月１３日（水曜日）１８：３０～２１：３０（開場１７：３０）
会場：クリエイティブセンター門川　多目的ホール
主催：特定非営利活動法人子どもの森・宮崎県（生活・協働・男女参画課）

会場設営

県北のＮＰＯ・ボランティア団体・企業・行政が一堂につどい自分たちの想いをかたちにする協働商談会を開催しました。

◆目　的

出会い・交流・情報交換、新たな発見の場として、ＮＰＯ・ボランティア団体や企業・行政など多様な主体が認識を持ち、志をひとつにして、協働を推進するための出会いの場で、あたかも商談をするかのように協働の相手先を探すことにより、新しい協働事業を創出するものです。

～ 会場全体の様子 ～

協働の事例発表

昨年度の協働創出市に参加していただいた五ヶ瀬川流域ネットワークの山田さん、ダンボールコンポストネットワークの山下さん早川さんより協働の事例発がありました。

■３６団体（NPO・ボランティア団体２０、行政７、労働団体３、その他６）７３名が参加

特定非営利活動法人子どもの森	協働創出市を主催し、宮崎県（生活・協働・男女参画課）と協働して事業を進めています。
宮崎県（生活・協働・男女参画課）	協働創出市を委託し、子どもの森と協働して事業を進めています。

■協働創出市に参加した団体の一覧です。　　敬称略

宮崎県難病相談支援センター	空と大地の会
九州労働金庫	宮崎「橋の日」実行委員会
特定非営利活動法人五ヶ瀬川流域ネットワーク	さるなしの里
特定非営利活動法人ささゆり	社会福祉法人門川社会福祉協議会
日向市（市民協働課）	門川町子ども見守りネットワーク推進会議
NPO 法人福祉支援協会ライフサークル	わたしのふる里　宮崎
社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会（地域・ボランティア課）	延岡市精神保健福祉をすすめる会
日本労働組合総連合会宮崎県連合会（連合宮崎）	宮崎防災士ネットワーク
宮崎県（社会保健部長寿介護課）	全労済宮崎県本部
特定非営利活動法人ひめしゃら倶楽部	宮崎県ネイチャーゲーム協会
NPO 法人学校支援のべおかはげまし隊	フェニックス宮崎ネイチャーゲームの会
宮崎ダンボールコンポストネットワーク県北支部	宮崎県（環境森林部環境森林課みやざき森林づくり推進室豊かな森林づくり担当／みやざき森づくりコミッション）
門川町役場（総務課）（企画財政課）	宮崎県（工業支援課）
特定非営利活動法人日向渚を守る会	延岡ひかりの会
チャペル延岡　心のネットサークル	延岡市（市民協働・男女参画課）
日向　轍の会	宮崎県社会福祉協議会長寿社会推進センター
日向市男女共同参画社会づくり推進ルーム協議会「さんぴあ」	門川町観光協会

子どもの森と宮崎県の協働について

それぞれの団体単独では、その想いを形にすることの難しさを、８年間の子どもの森の活動を通して感じていました。一方、企業や他の団体と協働し活動した時には、容易に形になっていく実感がありました。

同じ想いを持つもの同士が一緒になって活動や事業を進めて行くことが、地域の問題解決にとって有効な手段であり、宮崎県の委託事業である「協働商談会開催事業」が、子どもの森の感じている協働を地域に広げることができる事業であることから、子どもの森で宮崎県生活・協働・男女参画課と協働して「協働商談会」を開催しています。今年度で３回目の開催となります。 http://kyoudou.info/

商談会の様子

協働とは・・・

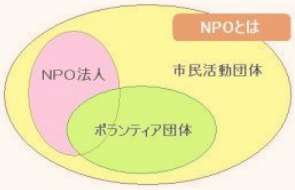
ＮＰＯや行政・民間企業がそれぞれの主体性、自発性のもとにお互いの立場や特性を認識・尊重しながら、共通の目的を達成するために協力・強調すること。

ボランティア、民間企業そして・・・新しい公共の担い手ＮＰＯ

ＮＰＯ（NonProfitOrganaization）とは、民間の非営利組織です。

ＮＰＯの定義は統一されていませんが、県では、法人格を持つ特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）及び法人格を持たないボランティア団体その他の市民活動団体等としています。

ＮＰＯは、地域の課題を解決するために社会的な使命感を持ち、新たな公共の担い手として期待されています。



※「非営利」とは、収益活動を行ってはいけない（儲けてはいけない）ということではなく、収益を団体の構成員に分配をしてはいけないということです。

※自治会、自治公民会、婦人会などの地縁団体も、公益の活動を行う場合はＮＰＯに含まれます。

あなたにもできる！協働

★農家が「食」の安全を提案
★自動車メーカーが交通安全啓発
★薬局が介護予防も
★書籍店で読み聞かせ
★宅配のついでに高齢者の見守り
★ガーデニングのついでに道路もきれいに
★居酒屋が町の集会場
★犬の散歩で見守り活動

その他にもアイデアしだいで協働の輪は広がります！

協働Ｑ＆Ａ

・協働すると、どんな良いことがありますか？

厳しい社会情勢が続く昨今、ＮＰＯや行政、民間企業の力だけではどうにもなりません。みんなで汗や知恵を出し合うことで、想いをかたちにすることができ明るい未来に近づくことができます。

・協働するにはどうしたら良いですか？

協働創出市で、地域社会をよくしたい想いを話し同じ想いを持っている相手を見つけましょう。きっと協働するパートナーがみつかります。

（「宮崎県とコラボしよ！」リーフレットより）

コラボシスターズ（協働イメージキャラクター）

コラボ鏡ちゃん
協働で必要な機動性をイメージしています。

コラボ玉ちゃん
協働で必要な柔軟性をイメージしています。

コラボ剣ちゃん
協働で必要な先駆性をイメージしています。

子どもの森が取り組む豊かな森づくり活動

■実施日 2012年度

6月30日
7月1日
7月11日
1月26日
1月27日
3月2日
3月30日

手入れがされず放置されている竹林を、子どもが入り遊ぶことができる広葉樹の林に再生し、人や動植物にやさしい自然環境と水源かん養や災害の防止など森林の公益的機能の維持増進を図るために、平成21年度から継続して竹の伐採を続けています。

昨年度に伐採した竹林の面積は約0．05haで、伐採竹は、粉砕機でチップにして堆肥作りを兼ねて森の学舎グランドの一部に散布しました。また、伐採した竹で棚を作り、棚に倒竹や竹笹部分等を積んでいます。

その他に、四季をまるごと体験ｅｃｏスクールでの竹イカダ、今年度から販売予定している竹炭・竹チップ・竹パウダーにも伐採した竹を活用します。

妖精の森

竹林となってしまった森林の一部を、子どもが入り遊ぶことができる広葉樹の森に再生しています。

昨年度購入した炭焼き窯で出来上がった販売用炭です。売上金は、森づくりのために活用されます。

平成25年3月30日は「春をたのしもう」と同時開催により26人の参加があり、平成21年度に竹を伐採し広葉樹の植樹をした空間に広葉樹を捕植樹しました。

企業（株式会社ローソン社員、近隣のローソン店舗の店長と従業員の方々）の参加が9名ありました。

・助成等：国土緑化推進機構特定公募事業（ローソン緑の募金事業）

■ＧＯＣＡＮの森への補植

２０１３年３月23日

門川高校に8時集合して、参加する高校生全員が揃ったところで、9人乗りワゴン車2台に分乗してＧＯＣＡＮの森に出発しました。今回の参加者は、2年生が8名、1年生が6名、引率の先生1名の計15人で、寒くなく雨も降らず絶好の森づくりボランティア日和でした。

二人一組となり、手鎌と山鍬、添え竹2本と苗木を2本持ってＧＯＣＡＮの森上部へ登り枯草を刈り植穴を掘り苗木を植えて行きます。今回植えた木は、ヤマザクラとイチイガシの二種類で、一人一本ずつを植樹しました。

補植が終わるとＧＯＣＡＮの森近くの沢で道具を洗ってから、森の学舎へ移動しました。

五　感
GOCANの森

門川高等学校演習林を五感で森林自然を感じることが出来るように高校生と一緒に取り組んでいます。

補植後のお楽しみは、豚汁、かまど炊飯のご飯、石窯で焼くピザです。高校生が3グループに分かれてそれぞれの準備にかかりました。

かまど炊飯のおこげを好んで食べ、美味しく焼きあげたピザを食べ、豚汁をおかわりして、お腹一杯になりました。高校生皆大満足だったようです。

お昼をゆっくりたっぷり食べ、予定より30分早く解散となりました。今日植樹した苗木を育てるために、初夏に下草刈りをすることを約束して、再びワゴン車2台に分乗して門川高校への帰路につきました。

【森づくり活動】
延べ実施日数8日間
延べ参加人数74人

森づくりボランティアに参加いただいた皆様ありがとうございました。

森林環境セミナー

～森の達人になろう～

環境問題への取組みのひとつである森づくり活動に継続して参加するボランティアと、森づくり活動を自らコーディネートするリーダー的ボランティアを育成するセミナーで、今回が５年目（５度目）の開催となります。

◆森づくりのための森林生態学

高木先生による森林生態学は、森林の種類、樹木の特徴、森林の種類、森林の持つ多様性など多岐にわたる講義でした。また、森林を育てる技術、遺伝的攪乱が起こらないような地域にある樹木で、適地適木とした施業体系の森づくりの重要性を学びました。森林のもつ多面的機能を同時に発揮できるような森づくりに取り組んでいきたと思いました。

◆森づくりボランティアの紹介

県内の森づくり団体が、どのような森づくりをやっているのか、また森林などを活用して、どのような環境学習をしているかを説明しました。

◆県北の森林と自然保護

樹木・植物観察

森の学舎周辺を散策して、講師の成迫先生から植物の名前や特徴など説明をしていただきました。

2013年 3月24日

9:00	開講式、オリエンテーション	事務局
9:20	森づくりのための森林生態学	宮崎大学農学部准教授 高木　正博　氏
11:30	森づくりボランティアの紹介	子どもの森　理事長 横山　謙一
13:00	自然保護と樹木・植物観察	宮崎県環境保全アドバイザー・県北植物愛好会 成迫平五郎 氏

成迫平五郎先生の植物観察

高木正博先生の講義

みやざき森づくりボランティア協議会加盟団体としての活動

森づくりシンポジウム

２０１２年11月25日

宮崎県内の森づくり団体が集まって、情報交換や森づくりの研修・技能を学んでいます。また、一般の方への普及活動も行っています。子どもの森は、２００５年に加盟し、現在20団体が所属しています。

昆虫写真家の新開孝さん

場所：宮崎県立図書館２階研修ホール
事例発表：高千穂森の会、ロキシーヒルの会
講演：昆虫の目でみる自然（昆虫写真家の新開孝さん）

「みやざき森づくりボランティア協議会」主催の森づくりシンポジウムが開催されました。

豊かな森を守ることは、生態系の豊かさもつくりだし多種多様な生物を育むことになることを、新開さんの講演を聴いて改めて感じました。新開孝さんの著書には、ヤママユガ観察事典、珍虫の愛虫記、里山大百科（共著）、カメムシ観察事典、里山昆虫ガイドブック、虫の飼いかた・さがしかた（共著）、里山蝶ガイドブック、虫たちのふしぎ等があります。

チェーンソー及び造林鎌、腰ナタのメンテナンス講習会

２０１２年９月９日

みやざき森づくりボランティア協議会の「チェーンソー及び造林鎌、腰ナタのメンテナンス講習会」がロキシーヒルで開催されました。

10時～　チェーンソー及び造林鎌、腰ナタのメンテナンス
講師：貴船吉見さん（西都市・元営林署職員）

チェーンの目立てについて、新しい知識を覚えることができました。歯先は、チェーンと90度に、広葉樹などの固い木を切る時は歯を鋭角にしない、ヨーロッパでの追い口の作り方が日本とは逆である、水なしでの砥石の使い方等など。これは、今までの講習会等では聞いたことがありませんでした。さすが現場での叩き上げの貴船さんです。

13時～　チェーンソーアートの実演・体験
講師：田中佑樹さん（霓景・NPO法人四季の会）

チェーンソーアートでは、製材などに向かない市場価値がないため山に放置される木を使います。今回の杉丸太も山に捨てられていた二股に分かれた部分でした。チェーンソーを使用して木彫刻を行い、木を無駄にしないというコンセプトで取り組んでいるそうです。体験では、背もたれ付きの椅子を作りました。

もりのまなびや

森の学舎

旧西門川小学校松瀬分校を活用している森の学舎。環境プログラムの開催と環境文庫の常設をしています。また、団体への施設開放、自然体験活動の受け入れもおこなっています。
http://www.kodomonomori.info

学舎の開放

『シェーナウの想い」無料上映会　２０１２年９月８日

森の学舎で、宮崎県リレー上映会実行委員会（古田栄子代表）により「シェーナウの想い」無料リレー上映会を開催しました。

現在もなお大きな爪痕を残すチェルノブイリ原発事故をきっかけに、原発に依存しない社会を実現するために、住民運動からスタートして住民による電力供給会社を作りあげたドキュメンタリー映画です。原発を無くし安全な社会を子どもたちに残すために立ち上がり、安全でない電力を生産し供給して得益をあげている企業と、住民による電力供給に難色をしめす政治行政に、10年間挑み続けた記録映画です。

ひとりひとりの力は弱いけど皆で力を合わせることで想いが実現できることを、この映画を観て感じることができます。

短歌の会　２０１２年12月８日

森の学舎施設開放で、門川短歌に親しむ会主催で川村節子さんを招いた短歌講座が行われました。参加者それぞれ事前に短歌を作ってきて、他の人の短歌を読み批評をおこない、最後に作者が短歌の意味を発表する流れでした。約2時間30分の短歌の会が終わってから、食事の会が2時間ほどありました。参加者は、森の学舎を気に入ってくれたようでした。

今日もまたいいねないよね寂しい
日君も忙しでも他いいね　　K

金色の散りゆく落ち葉つかみたし
手をのばす子ら風はうつろふ　　J

小麦について　シリーズ ②

麦は、健康にいい五穀のひとつ

日本では麦は昔から五穀のひとつとして、お米についでだいじな食料でした。

五穀っていうのは、コメ、ムギ、アワ、マメ、キビ（またはヒエ）のことで、人々がよく食べる食料のことです。麦にはコムギやオオムギのほかに、ライムギ、エンバク、ライコムギなどがありますが、日本ではこれらを同じ麦の仲間と考えています。ヨーロッパでは、なかでもコムギだけは、とくに大切な食べ物として扱われていて、他の麦は、コムギとは全く別の作物として考えています。

日本では、オオムギもコムギもみんなムギ

日本でお米だけのごはんが食べられるようになったのは、つい最近のことです。ふつうの人は、お祭りやなにか特別な日以外は、お米にオオムギや雑穀（ヒエ、アワ）をまぜて食べていました。その様なわけで日本では、オオムギもコムギと同じように大切にされてきました。コムギとオオムギを同じように大事にする国は世界でもめずらしく、日本をのぞいては、チベットやエチオピアぐらいです。

麦秋（ばくしゅう）

麦の刈りとりの季節を、麦秋といいます。秋という字を使うけれど、6月なんです。この季節になると、麦の穂が黄色くいろづいて、麦畑がまるで秋みたいな風景になるからです。

ecoスクールで栽培した小麦
2013年5月撮影

2012全国廃校活用現地セミナー（九州地区）in熊本
2012年6月14日・15日

主催：財団法人都市農山漁村交流活性化機構（まちむら交流きこう）

廃校なった小中学校を再生可能な貴重な地域財産として捉え、様々な形で有効活用を考えるセミナーが開催されました。セミナーには、現に廃校を活用している団体やこれから活用しようと考えている会社、民間団体、行政の約40人が参加し、横山純子理事は、講師として一日目に廃校活用事例の報告おこないました。

2日目は、まちむら交流きこうの畠山さんから「全国における廃校活用の動向と事例紹介」があり、その後、意見交換会では、参加者の質問に、子どもの森での事例を交えながらお話しさせていただきました。一日目の夜は、懇談・交流会もあり「きくちふるさと交流館」の皆さんが準備してくれたおいしい料理をいただきました。二次会では、徳野先生の特別講義もあり、先生の久しぶりのパワフルなお話に引き込まれ楽しい夜となりました。

このセミナーで、たくさんの方々と知り合うことができ、様々な活動に刺激を受けて、今後も子どもの森の活動に、これまで以上に使命感（環境を守る続ける）を持って取組むことができそうです。また、なみの高原やすらぎ交流館館長の望月さん、久木野ふるさとセンター愛林館館長の沢畑さん、そして、熊本大学の徳野先生との嬉しい再会もありました。

九州環境ボランティア会議での活動発表とパネルディスカッション　2012年11月18日

九州内県単位で持ち回り開催している「第9回九州環境ボランティア会議in宮崎」2日目の第1分科会で、子どもの森の活動発表と引き続きパネルディスカッションのパネリストとして、横山理事長が参加しました。

パネルディスカッションでは、①それぞれの活動団体の資金確保について、②林業生き残りについて、③綾の照葉樹林プロジェクトとユネスコエコパーク認定に至る経過、森林の有害鳥獣駆除、などについて質疑応答がありました。各団体や個人の想いなどを聞くことができ大変有意義でした。

シニア・団塊世代応援フェアin延岡　2013年1月13日

主催：宮崎県長寿介護課・宮崎県社会福祉協議会

会場：キャトルセゾン・マツイ

高齢者の豊富な知識や経験を生かして多様な分野で社会参加することにより、高齢者自身のいきがい・健康づくりはもとより、地域・社会全体の活性化を図るために、団塊世代でいきいきと活動をされている俳優の岡本信人氏の講演やトークショー、地域活動団体の紹介（ワールド・カフェ）が行われました。子どもの森は、地域活動団体の一つとしてフェアに参加しました。子どもの森のテーブルには7人の方がおみえになり、子どもの森の活動説明と質疑応答等を行いました。団塊世代であるシニアの方々が、地域団体の活動に参加し、その人生経験や知識・技能を活かすことで、地域貢献に生きがいを見いだすことができればと願いました。

足踏み脱穀機

昭和20年代のモノと思われる足ふみ脱穀機（右側）は、シロアリで傷んだ木枠2本と踏板を交換しました。昭和初期（左側）のモノと思われる足ふむ脱穀機は、修理ではなく復元作業となりました。木枠は1本しか使えず木枠全てを作り直し、ボルト類もすべて交換しました。

■足踏式脱穀機（明治末期～昭和初期）明治末期頃に開発された足踏脱穀は、当時としては性能の良い機械として各農家に広く普及し、稲の脱穀は勿論、麦、大豆、そば等の脱穀に広く使用された。

◆取材・出演◆

◇わいWaiTV
四季をまるごと体験ecoスクール開校式・ネイチャーゲーム
2012年5月29日
四季をまるごと体験ecoスクールパン焼きと閉校
2013年3月9日、10日
植樹&春を楽しもう
2013年3月30日
川をたのしく親しもう
2012年7月29日

◇宮崎日々新聞社
四季をまるごと体験ecoスクール探検気分で自然を満喫
2012年6月1日付20面

◇環境みやざき推進協議会
ecoみやざきNo85
2012年秋号付5、6面

平成24年度活動への助成・寄附等の報告

＊宮崎県森林づくり活動支援事業（宮崎県森林環境税）
妖精の森の竹伐採（竹林の整備）、高校生との五感の森補植作業への助成、森づくりボランティア養成講座（森林環境セミナー）への一部助成

＊緑の募金特定公募事業（国土緑化推進機構緑）
妖精の森の竹伐採（竹林の整備）

＊協働商談会開催事業委託費（宮崎県生活・協働・男女参画課）
協働商談会（協働創出市２０１２）の開催に係る委託費

＊国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金
四季をまるごと体験ｅｃｏスクール
川をたのしく親しもう
森で過ごそう森に学ぼう

＊イオン黄色いレシート
イオン各店での黄色いレシートキャンペーン箱に投函されたレシート金額の１％相当額の物品が活動全般に寄贈されます。

＊ろうきんＮＰＯ寄付
労働金庫の預金者の方が応援したいＮＰＯ法人へ、希望する金額を、希望する日に、預金者に代わって預金口座から寄付団体の口座に自動振替する制度です。１回の寄付額は、１００円以上（１００円単位）です。４件の寄付がありました。

＊個人による寄附
小森　様（宮崎市）

ありがとうございました

２０１３年度活動予定

月	予定/実施日	活　動　名	場　所
4	２１（日）	竹林整備	妖精の森
	２７（土）	森の学舎の施設整備	森の学舎
	２８（日）	竹林整備	妖精の森
5	4/30(火)・5/1(水) 2(木)・3(祝)・4(祝)・5(祝)	森の学舎の施設整備	森の学舎
	６（振）	総会	森の学舎
	１８（土）	ｅｃｏスクール	森の学舎
	１９（日）	ｅｃｏスクール準備	森の学舎
	２５（土）	ｅｃｏスクール	森の学舎
	２６（日）	竹林整備	妖精の森
6	１（土）	ｅｃｏスクール準備	森の学舎
	１５（土）	高校生との森づくり	ＧＯＣＡＮの森
	１６（日）	みやざき森づくりボランティア協議会総会	環の会（串間市）
	２３（土）	森の学舎の施設整備	森の学舎と五十鈴川
	２９（土）	ｅｃｏスクール	森の学舎
7	７（日）	竹林整備	妖精の森
	１３（土）	ｅｃｏスクール準備	森の学舎と五十鈴川
	２０（土）	ｅｃｏスクール	森の学舎と五十鈴川
	２１（日）	川をたのしく親しもう準備	森の学舎と五十鈴川
	２８（日）	川をたのしく親しもう	森の学舎と五十鈴川
8	１１（日）	ｅｃｏスクール準備	森の学舎、浜辺
	２４（土）	ｅｃｏスクール	日向灘、浜辺
9	８（日）	竹林整備	妖精の森
	１５（日）	エコフェスタと森のコンサート	森の学舎
	２１（土）	ｅｃｏスクール	森の学舎
	２９（日）	竹林整備	妖精の森
10	６（日）	ほだ木起こし	森の学舎ほだ場
	２０（日）	ｅｃｏスクール準備	森の学舎麦畑
	２６（土）	ｅｃｏスクール	森の学舎
11	１０（日）	ｅｃｏスクール準備	森の学舎麦畑
	１６（土）	ｅｃｏスクール	森の学舎麦畑
	２４（日）	竹林整備	妖精の森
	２７（水）	協働創出市	未定
12	８（日）	竹林整備	妖精の森
1	１８（土）	ｅｃｏスクール	矢北牧場、森の学舎
	２６（日）	竹林整備	妖精の森
2	１１（祝）	黄色いレシートキャンペーン	イオングループ店
	１５（土）	ｅｃｏスクール	松田農園、森の学舎
	２３（日）	竹林整備	妖精の森
3	１(土)・２(日)	ｅｃｏスクール	森の学舎
	９（日）	竹林整備	妖精の森
	３０（日）	森林環境セミナー	森の学舎
4	６（日）	春をたのしもう	森の学舎と周辺
	２０（日）	竹林整備	妖精の森
	２７（日）	平成２６年度総会	森の学舎

表紙写真

８年前に植えたコナラのドングリが…

平成25年4月撮影（門川町）

コナラ
【属名】ブナ科コナラ属
【樹形】落葉高木
【葉】葉の長さは5～15cmで、20cmほどのものもある。若葉では、葉の表面に毛があるが、比較的早期に脱落し、ほぼ無毛。裏面は灰白色から淡緑色で、微細な星状毛と絹毛がある。
【花】コナラは新葉の展開とともに花を咲かせる。雄花序は長さ6～9cm、長く垂れ下がった尾状であり、1つの花には4～8本の葯がある。
【分布】北海道～九州

編集後記

２０１３年10月、子どもの森の活動が10年目を迎えます。原木しいたけの栽培、雑木林の整備から活動が始まり、森の中での環境学習、2ヶ所の森づくり、平成19年には、旧西門川松瀬分校を活動の拠点として整備、裏山の竹林の整備に取り組んできました。これまでの活動は、多くの方々の協力をいただいて続けられたかと思っています。これからも自然と共にゆっくりとそして、環境問題について楽しみながら考えられる活動を行っていきます。
人と森の繋がりを多くの人に楽しんでほしいそんな想いで、9月15日（日）「エコフェスタ２０１３＆森のコンサート」を開催します。森の学舎にぜひお越し下さい。

子どもの森通信　第10号
発行・編集：特定非営利活動法人子どもの森広報委員会　〒889-0624 宮崎県東臼杵郡門川町城ヶ丘2-2
TEL/FAX：0982-95-7800　Mail:office09@kodomonomori.info
http://www.kodomonomori.info　facebook https://facebook.com/npo.kodomonomori